

# イキメン研究所

キーワード：子育て男性、当事者、育児、家事、地域参画、連携

## 活動の内容 パパが当事者としてパパのあり方を研究・発信

### 【なぜイキメン研究所か？】

川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）では、2013年6月に、男性支援事業として「イキメン研究所」をスタートさせました。本事業においては、「イキメン」を仕事だけでなく地域でも「イキ」生きと過ごす男性と位置づけています。他にもなく、この「イキメン」を冠した理由としては、子育てや家事、ワーク・ライフ・バランスといった地域を超えた全国共通の理念的な課題よりも、むしろ実際に居住し生活する地域に参画したい活動したいという実践的課題に答えたいことこそが、地域に根ざす男女共同参画推進拠点施設が果たすべき役割であるということの再認識が挙げられます。また、「研究所」というスタイルは、パートナーや有識者等が言っていることを実践するという受動的な姿勢ではなく、当事者として、自分自身の問題として捉え、主体的な関わりを引き出す意味合いが込められています。

### 【具体的な活動内容】

「イキメン」それ自体は就業中の男性のみならず退職後の男性も対象となりえますが、テーマの拡散を防ぎ、当事者どうしのつながりを確保するため、子育て世代の男性を対象としました。市内在住・在勤で小学生以下の子どもがいる男性保護者を募集したところ、就学前児のいる30～40歳代を中心とする計8名がメンバーとなりました。メンバーは、月1～2回のミーティングを開催し、以下の内容を検討しながら事業を進めています。

#### （1）パパのための子育てサロンの企画・運営

当事者としての参画にむけた現状・課題・工夫の洗い出しと整理、また、パパどうしの情報交換とつながりづくりのきっかけとして、メンバーが「パパのための子育てサロン」（全4回）を企画し、当日の運営もメンバーが担っています。

#### （2）父子手帳作成・配布（予定）

男女共同参画社会における男性の子育てを「父子手帳」（仮）としてとりまとめ、次年度に冊子を発行、さらにメンバーも両親学級等で説明することなどを予定しています。

#### （3）おまつりイベントの企画・運営（予定）

地域の多くの団体・個人が来場する、センター主催のおまつりイベントにおいて、イキメン研究所として親子で参加できるイベントを企画・運営することで、より広く声を集めるとともに、情報発信の場、地域参画実践の場としても位置づけています。

### 【活動の様子】

ミーティングでは、現在、上記（1）のサロンでとりあげる具体的なコンテンツ、進行方法、役割分担をメンバー同士で話し合い、実施後はその振り返りと成果の共有をしています。

ミーティング内容は Facebook のメンバー用ページに議事録とともに残し、議論しきれなかった部分は同ページでのやりとりで補完するようにしています（ただし、オンラインの議論はあまり活性化せず、課題があります）。同時に、広報の一環として、公開用の Facebook ページにも各回のミーティングの様子を掲載しています。

サロン当日は、司会進行、グループワークにおけるファシリテーター役、ミニイベント担当も全てメンバーが交代で担っています。課題としては、全員が必ずしもグループワーク運営経験があるわけではないため、ファシリテーションが難しいケースが見られるという点です。今後も地域で活動していくことを見据え、運営メンバーも参加できる日程・形式で、センター主催のファシリテーション講座の開催を検討しています。

また、サロンで出てきた声を父子手帳コンテンツに活かす計画であるため、サロンの実施回数を追うごとに「研究所」としての成果が出ているのかどうか、どのように工夫するべきかなど、議論はより真剣さを増してきています。

## 活動のきっかけや目的 子育て・家事・地域の当事者としての参画

### 【背景と目的】

「イクメン」の広まりをはじめ、男性の子育て・家事・地域参画は少しずつ増加しています。とはいえ、実態としては子どもと遊ぶだけであったり、ママが担う前提での「手伝い」というほどの意識であったりと、子育てや家事の当事者として参画できているかは疑わしいケースも少なくないという想いを抱いていました。また、これまでも男性向け事業として「男性の生き方」等をテーマに講座を実施してきましたが、一般論になりがちでシニア以外の男性に対しては受講の動機づけとして弱い、受講者は元々関心がある男性が多い、受講後に家庭や地域での実践へと結びついているか不明確であるといった課題がありました。

そこで、イクメン研究所では、男性市民自身が研究メンバーとなって当事者としての参画のあり方、その課題を主体的に研究するとともに、さらに成果を地域に発信し、広める活動を通じて地域参画することを目的に実施することとしました。

### 【参加者の動機と声】

メンバーとなった男性たちのなかには、他機関や NPO 団体主催の父親学級に参加していた男性もいましたが、前年度に当センター主催で実施したパパ向けサロンの参加者（当時はパートナーからの促しがあり参加）、海外赴任中にできなかった子育てをしたい、地域でつながりがほしいというメンバーもいました。特に、前年度パパ向けサロンからの連続参加があったことは、男性たちが継続して足を運べる居場所を求めていること、地域の男女共同参画関連施設がその役割を担う意義を示していると感じます。

メンバーが実際にイクメン研究所に期待していたこととしては、「自営業だが、仕事と家庭の両立ができておらず、バランスをどうすればいいか模索中」、「夫婦間で子育てに関してギャップがあるが、なぜギャップが生まれるのか、どう解消すればいいのかを実例から学びたい」といった声があります。こうした声は他のメンバーからも聞かれ、子育て・家事を担う男性が増える一方でそのやり方について悩みを抱えており、自分にも取り入れられる実例について情報交換できる

場が参加動機のひとつとなっているようです。今後、サロンや父子手帳等を展開していくうえでも、対象者の参考となり取り入れられる情報の発信、情報交換の場を設けていく予定です。

## ポイント 参加から参画へ

- ・イキメン研究所の活動に際しては、センター事務局は方向性を示しながらも補助的な位置に留まり、研究所メンバーが主体的に企画・運営をするようにしています。
- ・特に留意した点としては、「サロン運営」「父子手帳作成」「おまつりイベント実施」といった具体的な目標を設定し、メンバーそれぞれが役割を担うということです。目標と役割があることで「やる気」と継続参加を引き出すことは、男性対象の事業では不可欠であると思います。
- ・主体的な取組みを引き出すため、メンバーに「研究員」としての名刺を作成し知人・友人等に配布してもらったほか、運営するパパ向けサロンのなかでできるだけ何らかの役割を分担したり、交代で Facebook ページによる発信を担ってもらったりしています。
- ・メンバーによるミーティング時にも可能な限り一時保育をつけるようにしています。一時保育があることで子どもと来館でき、パートナーにとってはひとりになれる時間が確保されます。一時保育が手配できない場合にも、キッズスペースのある部屋でミーティングをするなど、子どもと一緒に来館することを妨げないようにしています。
- ・パパ向けサロン参加者が終了後も継続して地域に関わりをもつことができるように、サロンのなかで父子手帳やセンターのおまつりのコンテンツを取り上げ、そのメンバーとなるよう声かけをすること参加から参画へと移行できるよう事業を設計しています。

## 活動の成果や今後の展開 具体的な目標と成果物

- ・メンバーのなかには、もともと育児・家事に積極的な男性がいたが、加えて、当事者としての育児・家事参画とはどうあるべきかが議論されるようになってきています。
- ・パパ向けサロンでは子どもとのミニイベント時間を設けていますが、そのミニイベントのためにメンバーは、絵本の読み聞かせについて新たに教わったり、子どもと踊れるダンスを習ってくるなど、自らスキルアップを図っていました。
- ・メンバーがワーク・ライフ・バランスのために実践している工夫や意義を座談会形式で記した記事にイキメン研究所の紹介を合わせて作成、市の労働情報誌「かわさきの労働情報」に掲載され、川崎市内約 2000 事業所に送付されました。
- ・市内他施設のワーク・ライフ・バランスをテーマとするイベント時に、メンバーが活動の様子と自身の経験を紹介しました。メンバーにとっては地域参画の一環でもあるため、今後も館外でも PR の機会をみつけて広げていきたいと考えています。
- ・運営の課題としては、メンバーはそれぞれに仕事をしているため、負担感が大きくなりすぎないようにしながら、しかし仕事と同様に地域での活動を重視して取り組んでもらえるよう、父子手帳やイベント開催といった、具体的な目標を設けながら事業を展開していきたいと考えています。

## その他 関係機関・団体との連携

- ・2012年度には、男性の子育て促進の一環で「あなたのイクフロ写真展」を募集し、館内外で掲示しました。さらに、知名度が高い川崎フロンターレと川崎浴場組合による「いっしょにおフロんた〜れ」企画に協力し、写真展に応募された作品をもとにしたパネルを銭湯壁面に展示するなど、市民の方が楽しく見たり参加したりできる機会を大切にしたいと考えています。



イクメン研究所企画運営  
「パパのための子育てサロン」



(イクメン研究所メンバーの打合せ)

### 【自治体・事業紹介】

名称 川崎市男女共同参画センター（愛称：すくらむ21）

事業開始年 2013（平成25）年

概要 川崎市における男女平等推進の唯一の施設として、調査研究、相談、学習研修、新ネットワーク等の事業を実施・展開しています。

ホームページアドレス <http://www.scrum21.or.jp/>

連絡先 〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口 2-20-1